

各学校(園)長様
分校主任様
児童会・生徒会ご担当者様

公益財団法人 日本ユニセフ協会
ユニセフ学校募金委員会委員長
赤松良子

第67回ユニセフ学校募金趣意書

わたしたちの持続可能な未来のために

平素よりユニセフ学校募金に、ご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

第二次世界大戦の被害を受けた日本の子どもたち、ユニセフ（国際連合児童基金）は、1949年からの15年間、粉ミルクや衣類の原料となる原綿、医薬品など、当時の金額で65億円もの支援をしました。その支援へのお礼の手紙に、子どもたちが添えた大切な10円玉、これが日本におけるユニセフ募金の始まりです。子どもたちのあたたかな思いから始まったユニセフ学校募金は、今年で第67回を数えます。

そして迎えた今年、世界中に広がる新型コロナウイルスは、日本を含めたどの国の子どもたちに対しても、等しく脅威となっています。また、依然として多くの国で紛争が続き、たくさん子どもたちが、厳しい生活を強いられています。

特に気候変動の影響は、国の境に関係なく顕著となり、気候変動がもたらす様々な自然災害の矢面に立つのもまた、子どもたちや弱い立場にある人びとです。このままでは、今を生きる私たちだけではなく、未来の世代もさらに厳しい状況に置かれ、この多様性に満ちた地球は、失われてしまうという危機感が高まっています。

2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は、持続可能な世界を築くために解決が求められる課題を提示し、一人ひとりがその解決の力になることを求めています。これから生きる子どもたちが、課題に立ち向かい、持続可能な未来を築いていくためには、何よりもいま、子どもたち自身がもって生まれた可能性を十分に伸ばして成長できることが不可欠です。しかし、そのチャンスが子どもたちに十分に届けられているとは言えません。

今年度もユニセフ学校募金では、「すべての子どもに、を。」と、空欄を設け、日本の子どもたちに問いかけています。この問いを、主体的で対話的な学びの糸口としていただき、空欄を埋める言葉を見つける過程で、子どもたちが、自分自身と世界の仲間たちの持続可能な未来像をえがき、課題を見つけて理解を深め、その解決の力になろうという意欲を持てるような教育に結び付けていただきたいと願っています。

ユニセフ学校募金が、世界の仲間たちを支えると同時に、持続可能な社会の創り手を育む大切な学びのある活動となるよう、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

